

努力賞

スイミーと小さなさかなたちとぼく

荒川区立尾久小学校二年

入江 樟

やなぎ田先生、はじめまして。「小さなさかなたちは、なんてゆう気があるのだろう。」これが、読みおえた時にさいしょに感じたことです。まさか、スイミーの声かけで、みんなできょう力して大きなさかなになるとは思いませんでした。大きなさかなにたべられてしまうと思うと、こわくてじつとしていた気もちもよくわかります。いわかげから出てくるのは、とてもゆう気があることだと思います。

小さなさかなたちは、なぜそうしたのでしょうか。小さなさかなたちの立ちばになって考えまし

た。ぼくにも、走るのがおそいとばかにされるのがこわくて、はずかしくて、とてもいやな時がありました。しかし、そのままではつまらなく、くやしいので、ゆう気をだしてこうどうしました。

ちいさなさかなたちがスイミーの声かけでうごいたように、ぼくは友だちに走りかたをならい、れんしゅうしました。小さなさかなたちが大きなさかなをおいはらうことができたように、ぼくもうどう会で、はじめて三になりました。おどりに出したいほどうれしい心もちになりました。

ぼくがちいさなさかなたちに親しみをもったのは、どこか自分とにているところがあるからかもしれない。小さなさかなたちもぼくも、できないとすぐにあきらめないで、なんとかしようがんばるせいかくなのです。

これから先、いやなことやにが手なこと、大へんなことがあった時、きつとぼくは、小さなさかなたちのことを思い出すでしょう。

このお話を読んで、自分のせいかくを見つめなおすことができてよかったと思います。